

長期ステロイド使用後の母親と非使用の息子が治療を続けた母子アトピーの経過 (44 歳・15 歳 母親・男児)

症例 ID：001-40-KM6 | 記録日：2015 年 3 月 5 日

1. 診断・治療前経過

母親は小学生頃から腕、膝、肩、背中、首へ症状が広がり、長年ステロイドを使用しました。就職3年目には外用しても赤みとかゆみが治まりにくくなりました。

息子は生後数か月で頬と足に症状が出ましたが、母親の経験からステロイドを使用せず治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	母親は長年ステロイド外用薬を使用しました。息子は使用していません。
製品名	母親の製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	母親は小学生期から 1995 年頃まで長期に使用しました。
中止時期	母親は 1995 年 4 月の治療開始時に中止しました。
来院前／後	母親は来院前に長期使用歴があります。息子は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
母親・小学生期～	長期経過	症状が腕、膝、肩、背中、首へ広がり、ステロイドを続けました。
1995 年 4 月	母親の治療開始	ステロイドを中止し、治療を開始しました。
治療開始後	母親のピーク	顔と手が腫れ、全身のかゆみ、落屑、発熱が強くなりました。
治療約 2 年後	母親の変化	IgE は 13370 から 3700 台へ低下し、皮膚のかゆみも徐々に減りました。
息子・生後数か月	小児症状	頬と足に症状が出ました。
息子 1 歳頃	変化	頬の赤みとかさつきが治まりました。
息子・幼稚園期	経過中	足首のかゆみが治まりましたが、膝裏の症状は続きました。
15 歳時	記録時点	膝裏に軽い症状が出るものの、治療を続けながら生活していました。

4. ピーク時期

母親のピークは、治療開始後に顔と手が強く腫れ、全身のかゆみ、落屑、発熱が重なった時期です。

5. 困りごと

- ・母親は全身症状の強い時期に、家族や友人の支援が必要でした。
- ・育児と自身の治療を並行しながら、息子の処置を続けました。
- ・息子は膝裏の症状が長く残りました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	母親の総 IgE
1995 年 4 月	13370
1997 年 6 月	3785
2009 年 10 月	1500

時期	母親の総 IgE
2015 年 6 月	307
2016 年 1 月	704

7. 経過のまとめ

母親は長期の経過で IgE が 13370 から低下し、皮膚のかゆみも徐々に減りました。

息子はステロイドを使用せず治療を続け、15 歳時には膝裏に軽い症状が出る程度となっていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。